

最近の掲載記事（2006年6～9月）

■ 茨城新聞ほか 6.1 行革推進法成立後の課題 構想日本代表 加藤秀樹
民と地方に権限委譲を ■週刊ダイヤモンド 6.17 都心の国有地は居住者
視点から定期借地権と空中権移転の活用を ■日本経済新聞 6.17 新型交付税
23府県で減 民間試算、増加は23 ■高知新聞ほか 6.17 経済私評 会社
とは何か ■日本経済新聞社 6.20 分権のデザイン 財政から描く① 我田
引水「税」改革遠く 地方交付税見直し 権限委譲と議論一体で ■日本
経済新聞社 6.24 「交付税で格差補てんを」 ■CREDIT AGE 7月号 6.25
貸金業制度見直し論① 本当に上限金利は必要か？ 上限金利の単純な引き
下げは結果として資金供給を細らせる ■日本経済新聞社 7.14 経済教室
改革の基本は地方の自律 「事業仕分け」が起点 交付税は都市の「依存料」
■信濃毎日新聞 7.15 '06知事を選ぶ31 インタビュー問われるもの6
小泉改革と地方 県と市町村補完関係に 構想日本代表加藤秀樹 ■中部
経済新聞ほか 7.15 経済私評 交付税改革のポイント ■読売新聞 7.19
読売国際会議2006夏季フォーラム 「新日本の設計—“小さな政府”を考える」
地方自立へ分権推進、改革さらに肉付けを 無駄多い「全国一律」加藤秀樹
■中部経済新聞ほか 8.12 経済私評 「格差」と「違い」 ■毎日新聞ほか
8.13 公開評価会 市民ら傍聴 熱海市の事業仕分け ■朝日新聞 9.02
(beword) 退職手当債 行政のコストを明確に(富永朋義) ■琉球新報
9.08 経済私評 「上の対応」より現場の工夫 ■月刊世相 10月号 9.29
hot line 時の人・話題の人【行革】加藤秀樹 見せかけだった小泉改革 原点に
帰って官の仕事見直せ

J.I. NEWS vol.27

構想日本
JAPAN INITIATIVE

<http://www.kosonippon.org>

構想日本ホームページリニューアル！

構想日本

検索

と検索してください。

今年で構想日本の活動は10年目を迎えています。
これを機に、構想日本“性能アップ”的ため、ホームページを大幅に
リニューアルしました。
リニューアル後のページは以下の特徴があります。

①「ワンクリックアンケート」

素朴な疑問や旬な出来事について、皆さんの考えをお聞かせください。
(詳しくは下記ホームページをご覧ください。)

<http://www.kosonippon.org/enquete/backnumber.php>

② コラム「政治ガイド」

「政治家・政策データベース」<http://db.kosonippon.org/>に新設。
国会審議の注目点や話題になっている法案などを、わかりやすく説明
します。

1回目は、「教育基本法審議ワンポイント解説」です。

ITの発展により、世界中からあらゆる情報を手に入れることが可能になりました。構想日本は、独立非営利の政策シンクタンクという、日本ではまだ他に例のないNPOとしての情報を、より多くの方に見ていただきたいと思っています。



1
2

構想日本の新ホームページのトップページ

お知らせ

「Yahoo! みんなの政治」に構想日本の記事が掲載されます!!
「Yahoo! みんなの政治」<http://seiiji.yahoo.co.jp/>のページの右側にある「政治記事読みくらべ」に、
定期的に構想日本の記事が掲載されることになりました。是非チェックしてください!

安倍新政権は「事業仕分け」の断行を！

戦後60年目の「大掃除」

安倍新総理は、「新たな国づくり」の柱のひとつに、
「民間の自律と過度の公的援助依存体質からの
脱却」を掲げています。小泉政権が積み残したこの
大きな課題を、安倍政権はどう実現するのか。
その最も現実的かつ効果的な手法が、個々の行政
サービスの必要性や本来の担い手を具体的に議論
する「事業仕分け」です。

構想日本がこれまで16の自治体と行ってきたこの
「事業仕分け」を国で実施することこそ、まだ始まった
ばかりの「小さな政府」「財政再建」を実践させる
ために不可欠なのです。



横浜市での事業仕分け作業風景(2005年9月)

求める約100の地方議会が政府に意見書を提出

すでに国の「事業
仕分け」は、「行
政改革推進法」
と「骨太の方針
2006」に明記
されています。

また、その実施を



千葉市での事業仕分け作業風景(2005年11月)

しています(下表参照)。しかし、「霞ヶ関」の抵抗は
大変強いものがあります。

カナダの「プログラム・レビュー」(1994年)は「事業
仕分け」と同様の作業で、財政改革に絶大な効果を
もたらしました。反対の声が渦巻くなかで成功した
最大の要因は、当時のクレティエン首相のリーダー
シップでした。

戦後60年目の行財政の「大掃除」といえる国の「事業
仕分け」実施に向け、構想日本は引き続きキャンペー
ンを行っていきます。

安倍政権を動かしていきましょう。

国の「事業仕分け」を求める意見書を提出した地方議会 (ホームページ検索分)

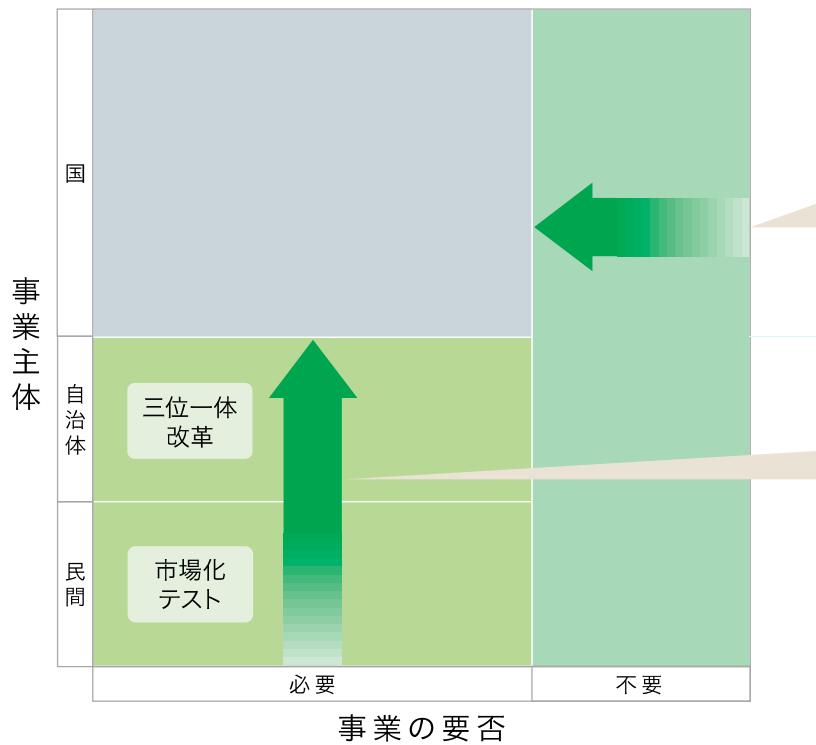
[市区町村] (88)

- 北海道：札幌市、旭川市、函館市、釧路市、小樽市、根室市、
名寄市、美唄市、留萌市、紋別市、伊達市、南幌町、
寿都町、白老町、仁木町
- 岩手県：遠野市
- 宮城県：多賀城市、名取市、蔵王町
- 福島県：福島市
- 茨城県：水戸市、石岡市、常総市、阿見町、利根町
- 群馬県：前橋市
- 埼玉県：草加市、吉川市、春日部市、ふじみ野市、深谷市、
上尾市、三芳町、宮代町
- 千葉県：市川市、船橋市、野田市、東金市、流山市、銚子市、
大網白里町
- 東京都：北区、葛飾区、東久留米市、調布市、三鷹市、
東村山市、武蔵村山市、清瀬市
- 神奈川県：座間市
- 富山县：富山市
- 山梨県：南アルプス市
- 岐阜県：瑞穂市
- 愛知県：津島市
- 滋賀県：大津市
- 京都府：京都市、長岡京市、亀岡市、向日市
- 大阪府：堺市、摂津市、和泉市、貝塚市、阪南市、枚方市、
大東市、寝屋川市、四條畷市
- 兵庫県：加西市、川西市
- 奈良県：橿原市、大和郡山市、大和高田市
- 鳥取県：倉吉市
- 広島県：三次市、府中町
- 愛媛県：今治市
- 高知県：高知市
- 福岡県：福岡市、北九州市、飯塚市、宗像市、
中間市、水巻町、志免町
- 長崎県：大村市
- 宮崎県：延岡市
- 熊本県：熊本市

[都道府県] (4) 北海道、千葉県、愛知県、熊本県

■ 国の「事業仕分け」の意義

現在の国の事業



① まずはその事業が「いるかいないか」

議論の順番は、「その事業は本当に必要なのか」⇒「(必要な事業について)だれが行うべきか」です。政府が始まろうとしている「市場化テスト」(民か官か)そして「三位一体」改革(地方か国か)など「誰が」だけでは本当の行政改革はできません。その前に「事業仕分け」が不可欠なのです。

② 民と官・地方と国の「役割分担の具体化」 (国のコントロールのあり出し)

「市場化テスト」や「三位一体」改革=地方分権改革を実効あるものにする上でも必須です。なぜならば、「事業仕分け」で官か民か、地方か国かの役割分担を明らかにしてはじめて、国のコントロール廃止など各事業についての責任、財源が明らかになるからです。「地方分権」をとっても、いつまでたっても同じところをぐるぐる回っているのは、すべての改革の起点である「事業仕分け」をあやふやにしたままいるからです。

③ 「公開」で実施

官僚に改革に向けた当事者意識を持たせるためと、国民にとってブラックボックスである行政の現状を知つてもらうために不可欠です。自治体の作業はすべて公開で行っています。国だけ非公開なんて絶対にあってはいけません(議論は非公開、議事録のみ公開などという小細工もなしです)。

最新刊のご紹介



[構想日本〈第4巻〉政治時評] 水曜社
構想日本 JIフォーラム編
価格:1575円(税込)

小泉時代終焉、日本の政治はどこへ行く？

力作、選挙など政治の核心問題に加え、政治とファッションといった魅力的なテーマのJIフォーラム4編(錚々たる政治家・論客、総勢40名登場)に加え、麻生太郎、谷垣禎一、北側一雄、額賀福志郎といった大物政治家が今の政治を読み解き、これからの日本を考える。

特別企画「検証・小泉改革5年間」では、櫻井よしこ(道路公団改革)、三浦展(格差社会)などの諸氏が小泉政権を総括。

構想日本の「事業仕分け」、いよいよ本になります！

「そもそも『事業仕分け』って何？ どういう経緯で始まったの？」「実際のやりとりは？ 仕分けの評価はどういう人たち？」「国の『事業仕分け』に対する霞ヶ関の抵抗って、具体的にどんな感じ？」――。
さまざま寄せられるみなさんからのご質問にお答えする一冊(ぎょうせい刊)です。
「現場」発、国の行政改革の切り札となる『事業仕分け』、その全容をみなさんにお届けします。
是非、ご期待ください。

年内刊行予定



【第105回 4月24日】 国有財産・本当に売っていいのか？

ゲスト：川勝 平太(国際日本文化研究センター教授) 鈴木 博之(東京大学大学院教授) 山岡 淳一郎(ノンフィクション作家)

★「都心の一等地に月3万円で公務員が住んでいるというのは不合理だ。だが、この土地を焼け石に水のような値段で売るのではなく、

国は土地を保有したまま100年位の超長期の借地権を設定して、民間に建物の建設や維持を任せても良いのではないか。」(山岡氏)

★「土地というのは具体的な存在で、スケールがある。10haを超えるような広い土地の場合と、せいぜい1,000坪ぐらいの狭い土地では、

じつは性格が全然違う。広い土地を売却して生じるいろいろな可能性と、狭い土地を売却して生ずる可能性はまったく異なるレベルのものだ。」(鈴木氏)

★「土地や水や空気は自分が生きている間レンタルで使わせていただく、という観念が基本にあるべきだ。司馬遼太郎さんは土地の私有は悪であり、全部公有にすべきだとおっしゃったが、それはこのような歴史認識があったからではないか。」(川勝氏)

【第106回 5月30日】 スポーツは偉大だ（スポーツで地域おこし・成功例） ～「スポーツ力」⇒ 老若男女が一致団結 ⇒ コミュニティ再生～

ゲスト：一井恒伸(高島市役所 営業推進室 主任) 大野祐介(日本サッカー協会公認代理人) 玉木正之(スポーツ・音楽ライター)
平田竹男(日本サッカー協会 ジェネラルセクレタリー) 福村拓良(「OBC高島」事務局 マネージャー)
溝畠 宏(大分フットボールクラブ代表取締役) コーディネーター：三ツ谷洋子(スポーツビジネスコンサルタント)



★「地方で具体的に国際化のイメージをつくるのはスポーツの一つの力ではないかと思う。」(平井氏)

★「日本には『体育教育』と、親会社の儲けのみを追及する『興行』しかなかったので、スポーツとビジネスが全く結びついてこなかった。」(玉木氏)

★「クラブは地域の人々に支えられて存在しているのだから、試合に行きたくてもお金がなくて行けない人にフィードバックするというのはチームの使命だと思っている。」(溝畠氏)

★「地域の人達に『このチームがあって良かった』と思われるよう努力したい。」(福村氏)

★「お金をかけずに地域に根ざしたチームを作ろうともがいでいるところ。」(一井氏)

★「(サッカー、フットサルというものを通して)都心のコミュニティづくりを提案できればと思っている。」(大野氏)

★「(Jリーグが出来た当時、)スポーツに関心のない住民にとっては、何でここにサッカーなんだという方が大変多かった」(三ツ矢氏)



【第107回 6月12日】 懐の深い関係を築こう ～日韓、東アジアの将来にむけて～

ゲスト：池 明觀(元東京女子大学教授・元韓国翰林大学校翰林科学院日本学研究所長)
小倉紀藏(京都大学大学院助教授) 隅元信一(朝日新聞 論説委員)

★「私は、中国と日本の関係の中で韓国がどうあるべきかをずっと考えてきたが、やはり韓国が日本と中国、そして東アジアの平和のために特別な使命を持たなければならないと思っている。また文化的には韓国は中国に非常に近いが、言語は日本に近い。このような親近性を考えながら、韓国はどのような役割を果たせるかを考えいかなければならない。」(池氏)

★「(アジア諸国との関係を考えていくうえで)やはり日本が一番分かりえるのは自由と民主主義という価値観を共有している韓国だ。私は、自由と民主主義という価値でアジアを構築していくなければならないと思う。」(小倉氏)

★「すべての新しい文化というのは学ぶという意味の『まね』から始まるわけで、そのためにも外の文化に触れていることが大事。」(隅元氏)



【第108回 7月25日】 “バリアフル”こそ醍醐味

ゲスト：川崎 和男(芸術と技術を具現化するデザインディレクター／大阪大学大学院工学研究科付属フロンティア研究センター教授)
兼元 謙任(株式会社 オウケイウェイヴ 代表取締役社長) 浜野慶一(株式会社 浜野製作所 代表取締役)

★「自慢ではないが私は身体障害者第一級、心臓障害第一級だ。バリアといふものは試練だと思うことが非常に大事だと思う。私はユニバーサルデザインという言葉を日本で始めて使ったが、ユニバーサルデザインも単純明快なものを目指すのではなく、バリアを乗り越えることを目指さなければならない。」(川崎氏)

★「やけっぱちになり、寝る場所もなく二年間「公園生活」をしながら、質問回答サイトのアイデアを考えていた。私は韓国籍であったために

様々な差別があった。しかしこれから日韓の関係が改善されていく上で、自分のビジネスのチャンスがあると思い、そのようなサイトを立ち上げた。」(兼元氏)

★「工場の火事など大体三年サイクルで大きな出来事が起こっている。だが、起こってしまったことに対してはあとからどうのこうの言っても仕方ない。『やるかやらないか』だと思っている。」(浜野氏)

● J I フォーラムの詳細は、ホームページをご覧下さい! <http://www.kosonippon.org/forum/index.php>